

単元名 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう（7/9）

小単元 一つの花（9月13日 1校時）

授業者：1組 授業者 増子 和彦

使用アプリ



### 本時の「評価規準」【思考力・判断力・表現力】

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。

#### 学習展開

#### アナログとデジタルの活用

1. 物語全体を振り返る。
  2. エキスパート活動で解くべき問いの設定を知る。
- 学習の進め方を確かめる。

- ・ノートを振り返って見て、登場人物の気持ちの変化について確かめる。

（ノート）

3. 一人一人が「問い」に対して自分なりの考えをもつ。
  - ・JAMボードに自分の考えを書く。
4. 「問い」に対する答えをエキスパート活動の考えを統合し、生み出す。
  - グループで共通の問いに対する答えを話し合い、答えを作り出す。
  - JAMボードにグループの考えをまとめる。
5. ジグソー活動で説明できるよう、自分のグループの問いに対して、一人一人が説明できるよう、協働して伝わるような表現を見つける。
  - JAMボードを見ながら、発表の練習をする。

#### 【評価B基準】

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、友だちから聞いたり自分で考えたりして、登場人物の気持ちや作者の意図についての自分なりの考えを文字で表現できる。
- ・物語を読んで、思ったことを説明したり、分からないことを質問したりして自分の考えをもつことができる。

#### 【手立て】

- ・グループ活動を、グループ全員が協力して、考えをまとめる場とすることで、たがいにアドバイスをし合い、一人一人が考えをもてるようにする。
  - ・ジグソー活動では、JAMボードに貼り付けてあるエキスパート活動でわかってきた内容を説明し合い、問いへの答えを出す。
- （タブレット・ノート）

6. 振り返りをする。
  - ・問いに対するグループの考えをノートに記録する。
  - ・エキスパート活動を通して、【学び方】で気付いたことをノートに書く。

- ・ノートに自分の考えを書く。

（ノート）

### 「振り返り」の工夫

互いの答えと根拠を検討し、その違いを通して、一人一人が自分なりのまとめ方を吟味するチャンスが得られ、一人一人が納得する過程が生まれることをねらいとする。

#### 授業者より（実践してみても）

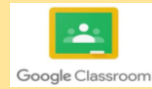
子ども達にとっても初めての取組で『自分に合った学び方』とは、どういう意味？というところから始まったが、一人一人が考えたことを班で共通の「問い」にむかって協働して取り組むことを通して、「学び方」という概念が生まれてきたように思う。やり続けることで、自己理解が深まり、学び方に対する自覚が芽生え、「知識・G脳」を生かし「思考力・判断力・表現力」を働かせ、課題解決しようとする「主体的に学ぶ態度」の育成につながると思いました。

単元名 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう(8/9)

小単元 一つの花 (9月15日2校時)

授業者：1組 授業者 増子 和彦

使用アプリ



### 本時の「評価規準」【思考力・判断力・表現力】

登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。

学習展開	アナログとデジタルの活用
<p>1. エキスパート活動の確認をする。</p> <p>○エキスパート活動で担当する資料の理解をグループで確かめる。</p> <p>2. 解くべき問いの設定を知る。</p>	<p>・ JAMボードに前時にまとめた資料に対する考えが書いてある。</p> <p style="text-align: right;">(タブレット)</p>
<p>3. エキスパート活動でのそれぞれの問いに対する考えを話し合う。</p> <p>○違う資料を読んだ人が1, 2名ずついる新しいグループに組み替え、エキスパート活動でわかってきた内容を説明し合う。</p> <p>4. ジグソー活動で「問い」に対する答えを考え、統合し、生み出す。</p> <p>○理解が深まったところで、それぞれのパートの知識を組み合わせ、問いへの答えを作り出す。</p> <p>5. クロストークで発表するための表現をみつける。</p> <p>○答えが出たら、その根拠も合わせてクラスで発表する準備をする。答えの根拠を検討し、表現の仕方を吟味する。</p>	<p><b>【評価B基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで理解したことに基づいて、友だちから聞いたり自分で考えたりして、作者の題名に込めた願いを自分なりの言葉を用いて文字で表現できる。</li> <li>物語を読んで、思ったことを説明したり、分からないことを質問したりして自分の考えをもつことができる。</li> </ul> <p><b>【手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動を、グループ全員が協力して、考えをまとめる場とすることで、たがいにアドバイスをし合い、一人一人が考えをもてるようにする。</li> </ul> <p>・ ジグソー活動では、JAMボードに貼り付けてあるエキスパート活動でわかってきた内容を見ながら説明し合い、問いへの答えを出す。</p> <p style="text-align: right;">(タブレット・ノート)</p>
<p>6. 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して、【学び方】で気付いたことをノートに書く。</li> </ul>	<p>・ ノートに自分の考えを書く。</p> <p style="text-align: right;">(ノート)</p>

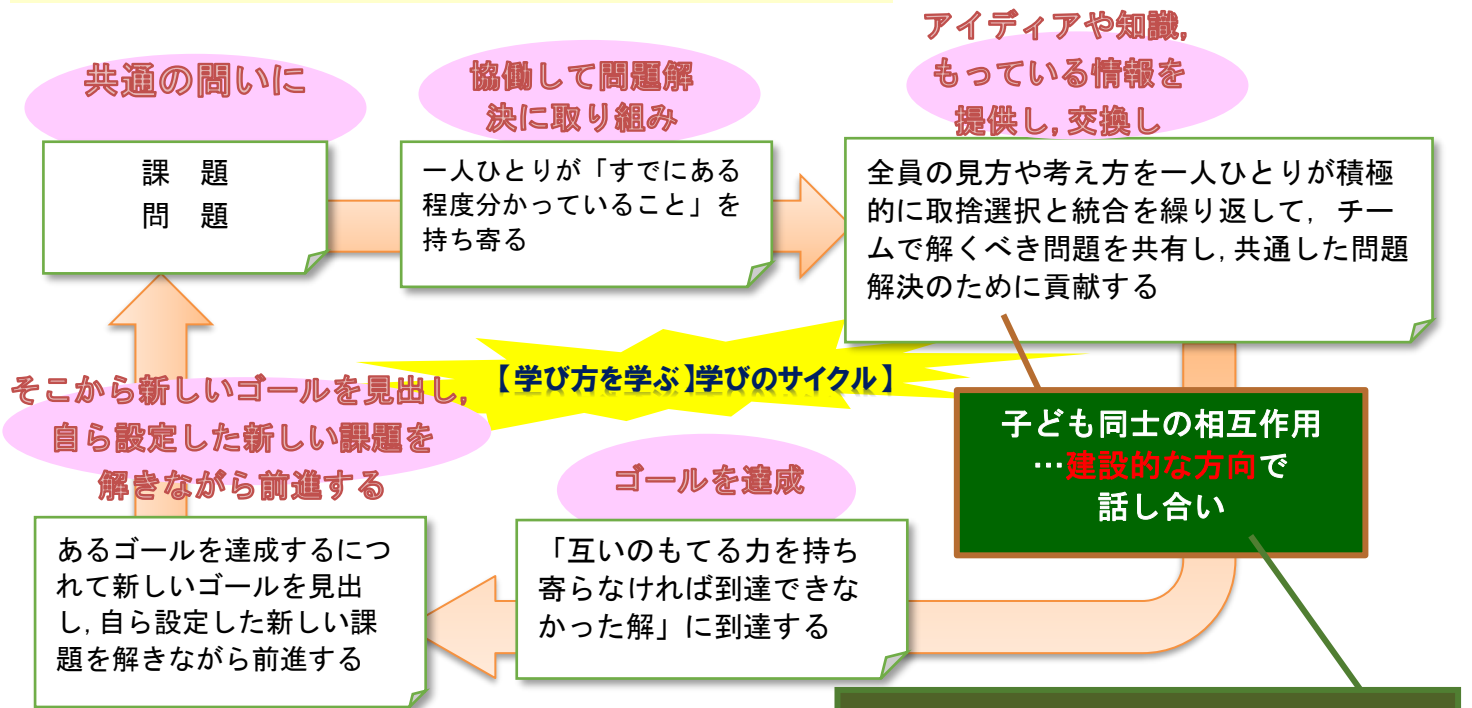
### 「振り返り」の工夫

互いの答えと根拠を検討し、その違いを通して、一人一人が自分なりのまとめ方を吟味するチャンスが得られ、一人一人が納得する過程が生まれることをねらいとする。

### 授業者より（実践してみて）

ジグソー法を通して、対話によって考えが深まることやみんな違った考えをもっていて、それを生かすと自分の考えの適用範囲が大きくなる経験ができた子も多かったと思う。また、協働で学ぶ楽しさを実感できたKもいた。育てたい子どもの力は、「知識技能」を用い「思考力判断力表現力」を働かせる【学びに向かう人間性】であると考えている。何を学ぶかだけでなく、どういうふうに学ぶかという視点を大切に授業づくりをした。子ども同士の会話を多く取り入れることで子どもが自分自身の「考え」【学び方】をアップデートできたのではないかと評価が課題。

# 新しい学習指導要領をもとに考える授業



## 持続可能な社会の創り手

企業の人たちや行政に関わる人たちは、一人一人がもっている知識やスキルを、協働して課題に取り組むことを通して、一人一人が少しずつできることを増やし、それをやり続けて、そのやり方そのものをみがき、実際に社会で、仕事や生活の課題解決に役立てていくことをしている。その過程を授業で体験的に学びます。この学びを通して、【学び方を学ぶ】力を育てることが、将来、社会から求められる課題に取り組むことができる人材：『持続可能な社会の創り手』を育てるという新学習指導要領に通ずると考えます。

## 育てたい力

複数の人に関係する相互作用のうち、その場に参加した人が参加する前と後とで自分の考え方を「建設的」と呼べる方向で変化させた、あるいは変化を得る相互作用

### ★「建設的」な方向の定義

= 「自分の考えの適用範囲を広くする」方向

自分の知っていること、分かっていることを他人の知っていること、他人が提供してくれる新しい情報と組み合わせ、統合して、手元の問いに自分ひとりでは作りださせない答えを出したり、自分の知識や理解で予測できることの範囲を今までより広くしたりすること。新しい学びのゴールのひとつ。

## 知識構成型ジグソー法を用いた国語の授業：単元づくり

1	全文通読 ノートづくり	
2～6	1. 「一つだけ・・・。」と言うときのお母さんは、どのような気持ちだったのだろう。 2. 高い高いをするお父さんは、どのような気持ちだったのだろう。 3. 見送り・出発前のお父さんお母さんは、どのような気持ちだったのだろう。 4. 汽車に乗っていくお父さんは、どのような気持ちだったのだろう。 5. 十年後、ゆみ子は、どのような暮らしをしているのだろう。	
7	エキスパート活動 ①なぜ「一つだけ」あげたのか？②なぜ家族ではなく「一つの花」を見つめて行ったのか？ ③なぜ、最後の場面で「一つ」ではなく「いっぱい」の花の場面を設定したのか？	
8	ジグソー活動 「作者は、なぜ「一つの花」という題名をつけたのだろう？また、このお話を通して、読者にどんなことを伝えたかったのだろう。	
9	クロストークで考えたことを自分なりに再構成して、もう一度自分の言葉で表現する	



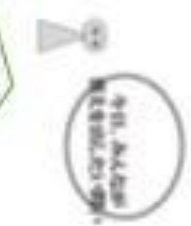
# 知識構成型ジグソー法

一連の学習の最初に書いた答えと最後に書いた答えを自分で比較してみることで、個々人に「私の考えは話し合っただけよくなる」自覚や「各自違う意見を統合すると答えが見える」自覚を持つチャンスが生まれる。こうした自覚の繰り返しで、育みたい資質・能力の育成につながっていく。

## ① 「知識構成型ジグソー法」

### ② 「知識構成型ジグソー法」 エキスパート活動

「一人で十分な考えが持たない本時の課題に  
対して、一人ひとりがまず自分で考えてみる

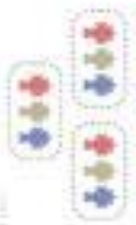


**STEP0 問いを設定する。**  
まず先生は、単元での「問い（課題）」を設定します。この時、既知についていることや、3つか4つの知識を部品として組み合わせることで解けるものになるように設定し、その問いを解くのに必要な資料を、知識のパートごとに準備します。

**STEP1 自分のわかっていることを家語化する。**  
「問い」を受け取ったら、はじめに一人で今思い浮かぶ答えを書いておきます。

**STEP2 エキスパート活動で専門家になる。**  
同じ資料を読み合うグループを作り、その資料に書かれた内容や意味を読み合い、グループで理解を深めます。この活動をエキスパート活動と呼びます。担当する資料にちよっと詳しくくなります。

## ③ 「知識構成型ジグソー法」 ジグソー活動



## ④ ジグソー活動 → クロストーク



## ⑤ 一人に帰る。

**STEP 5 一人に戻る。**

はじめに立てられた問いに再び向き合い、最後は一人で問いに対する答えを記述してみます。今日の一連の学習で考えたことを自分なりに統合して、もう一度自分の言葉で表現することで、自分が今日何をどこまで理解したのか、何が分からないのかを自覚するチャンスが生まれ、次の学びにつながります。

## STEP3 ジグソー活動で交換・統合する。

次に、違う資料を読んだ人が一人ずつ新しいグループに組み替え、さきほどのエキスパート活動でわかってきた内容を説明し合います。このグループでは、元の資料を知っているのは自分一人なので、自分の言葉で自分の考えが伝わるように説明することになります。この活動が、自分の理解状況を内省し、新たな疑問を持つ活動につながります。同時に他のメンバーから他の資料についての説明を聞き、自分が担当した資料との関連を考える中で、理解を深めていきます。理解が深まったところで、それぞれのパートの知識を組み合わせ、問いへの答えを作ります。

## STEP4 クロストークで発表し、表現をみつめる。

答えが出たら、その根拠も合わせてクラスで発表します。他者の意見に耳を傾けて、自分たちも全体への発表という形で表現をし直します。各グループから出てくる答えは同じでも根拠の説明は少しずつ違うでしょう。互いの答えと根拠を検討し、その違いを通して、一人ひとりが自分なりのまとめ方を吟味するチャンスが得られ、一人ひとりが納得する過程が生まれます。